



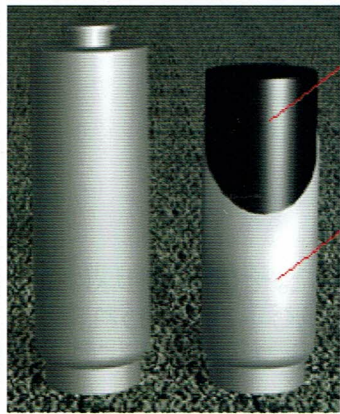
# 子どもたちのために 核のゴミのない寿都を!

No.1 2020年9月10日発行

日本中の原発にたまった核のゴミ:ぜんぶ寿都にきます

## 核(かく)のゴミの 地層(ちそう)処分 (しょぶん) どんなこと?

数10秒そばにいたら、死んでしまうほどつよい放射能(ほうしゃのう)をもった核のゴミ。それを6万本も、寿都の地下にうめる計画です。



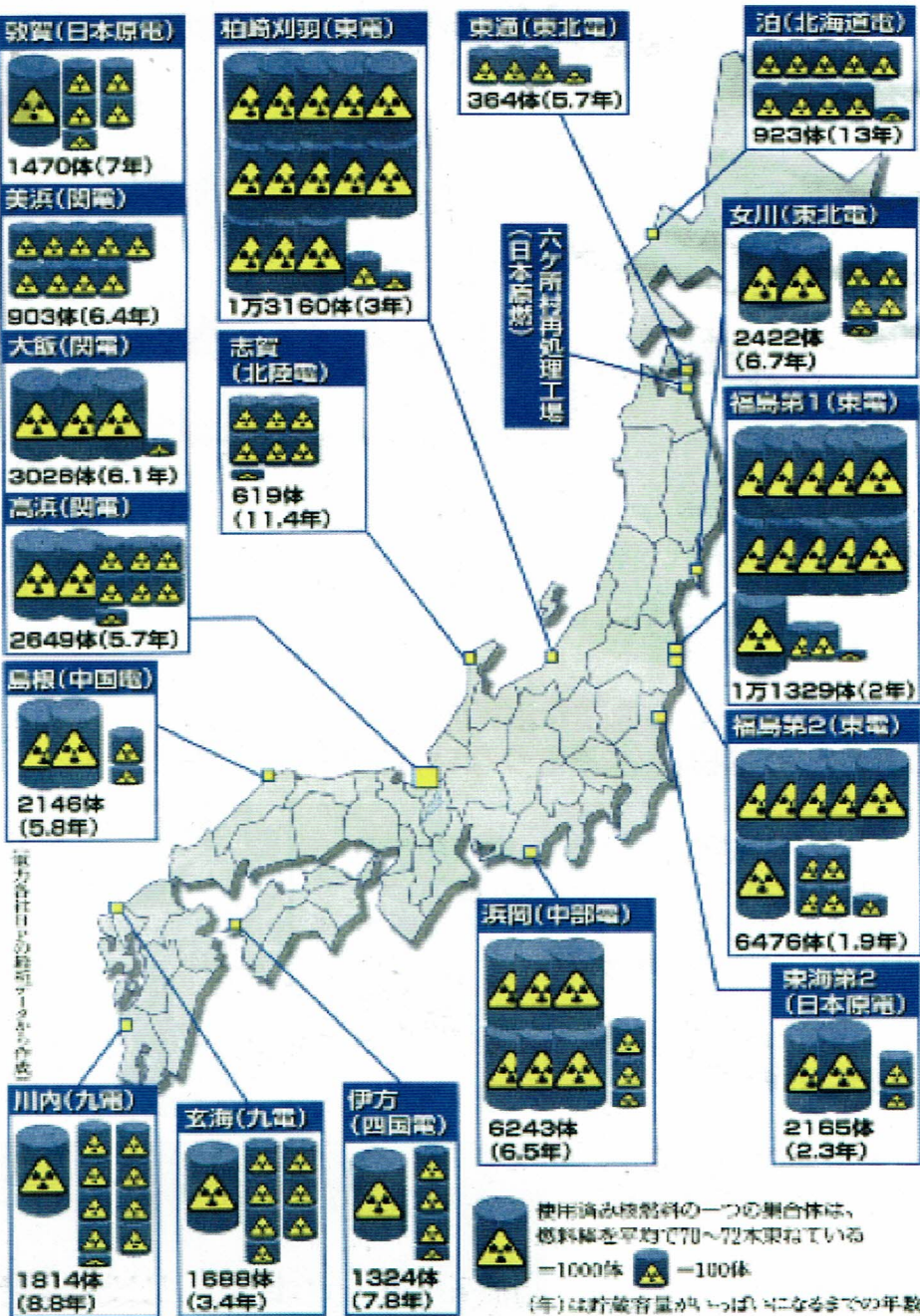
ガラスで固め、ステンレスに入れ、放射能がもれないように、まわりをねんどでふさぐ、といいますが、放射能がつよいので、どんな入れものでも、10万年のあいだにはこわれて放射能はもれだし、寿都町の大地や海をおせんしてしまう「きけん」が大きいのです。

原発では、使ったあとのきけんな核のゴミがあふれています。このままでは、原発を運転できなくなるので、それをみんな寿都にもってきて、地下にうめよう、というのです。

でも、3.11にフクシマ原発は大事故をおこし、いまも放射能はもれつづけています。おかあさんとひなんし、ふるさとにかえれなくなった子どもたちがたくさんいます。きけんな放射能を10万年も出す核のゴミを、寿都に入れていいのでしょうか?

運転できないほどゴミがあるなら、まず運転を止めるべきです。電力会社は原発で大きな利益をあげてきたのですから、そのお金でゴミを入れるスペースをひろげ、より安全にもして、原発のしきちで自らの責任でほかんつづければいいのです。

## こんなにある原発の使用済み核燃料の貯蔵量(体数)



## 子どもをもつ町内の母さんたちからのメッセージの一部です:

「寿都町の風、海、草、木、子どもたちの笑顔のみなもとは自然です!」

「子どもたちに“負の遺産”はいらない!!」

「子どもたちに残したいのは、キレイな海と山と風の美しい寿都町です!」

「子どもたちが安心して暮らせる未来を、子どもたちに残すのが私たち大人の責任です!」

「子どもたちの生きる原点は、自然からの感動。自然と一体になれる 寿都町の環境を 子どもたちには

永久に残してやりたいです!!」

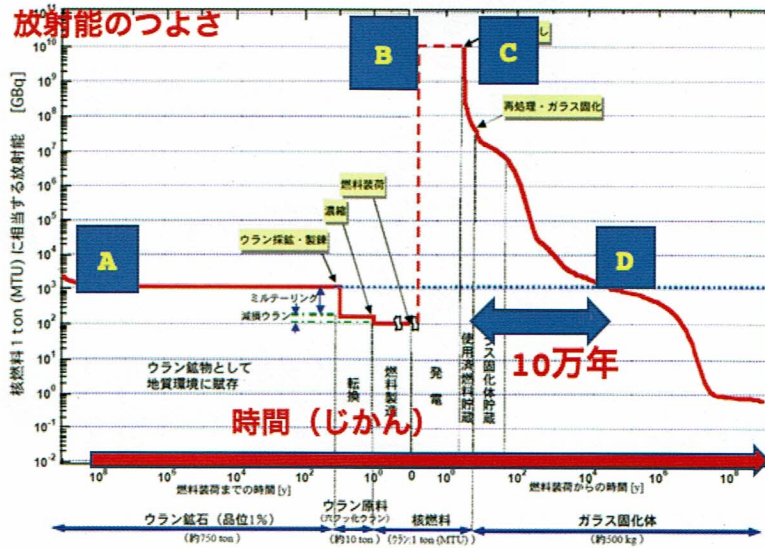
2014年のデータに基づく。3.11後の原発停止によりゴミの増え方はこの予測よりは減少



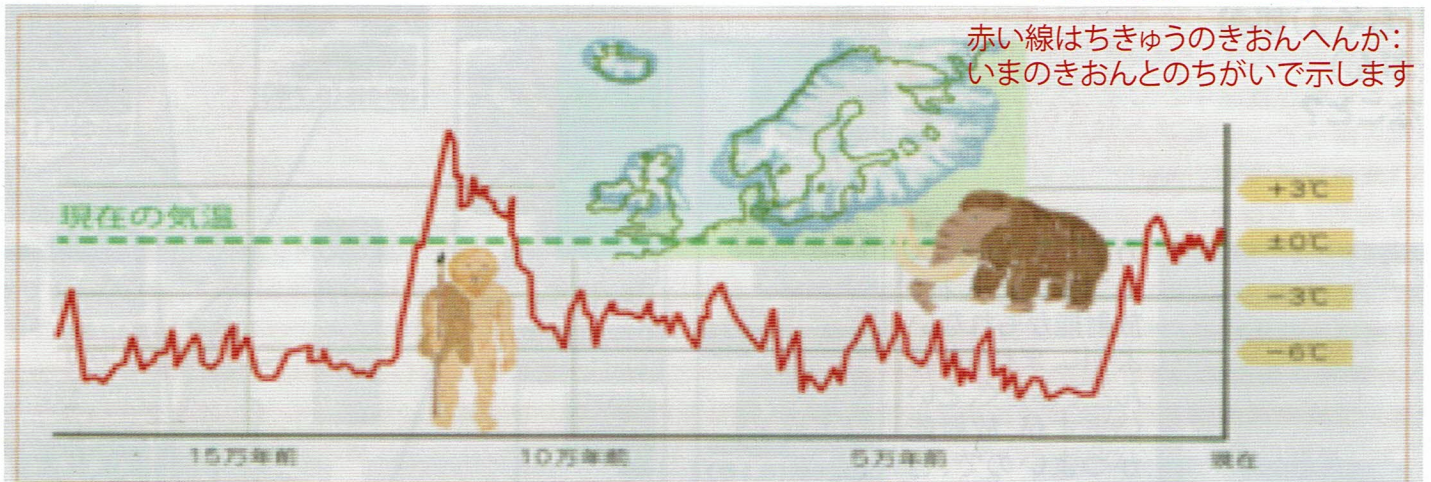


## 核のゴミは、なぜ、10万年もきけんなのですか？

原発では、地下からウランを掘りだし(A)、濃縮(のうしゅく)して原子炉でもやします(B)。もやしたあと、「使用(しよう)済み核(かく)燃料(ねんりょう)」になりますが、その放射能(ほうしゃのう)のつよさは、もやす前とほとんど変わらないのです(C)。そのつよい放射能が、だんだんよわくなって、もとのあぜんなレベルまでさがる(D)のに、なんと10万年もかかるのです！ 原発は、こんなにたいへんなゴミを出してしまうのです。



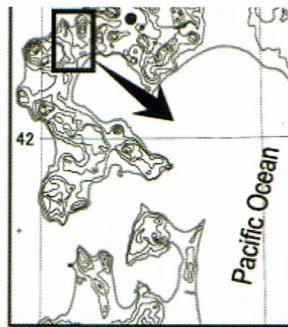
## 10万年ってどんなに長い時間？



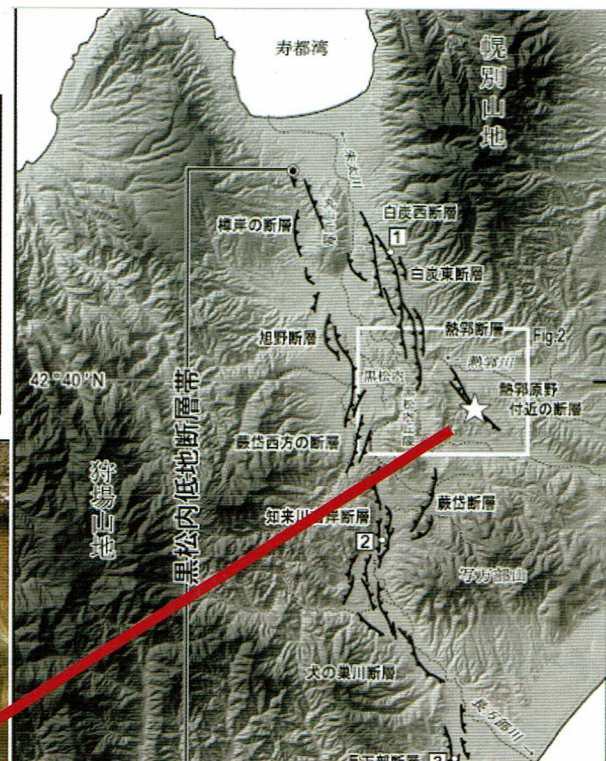
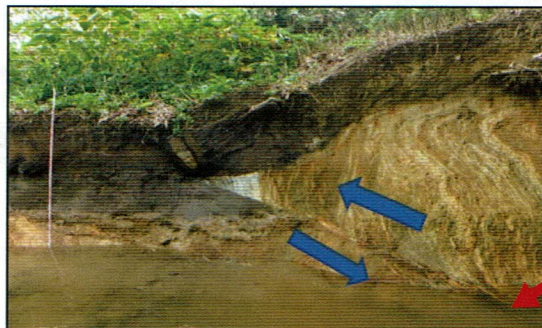
10万年前はネアンデルタール人の時代で、わたしたちのような人間はまだいませんでした。その後、地球はさむくなり、氷河時代がきて、北海道にはマンモスがわたってきました。ヨーロッパは大きな氷河におおわれました。縄文時代にはあたたかくなって、氷河はとけました。こんなに長い時間、これから危険なゴミを地下に埋めておいて寿都はだいじょうぶでしょうか？

## 北海道で、もっとも危険な活断層(かつだんそう)の集中する黒松内(くろまつない)低地帯(ていちたい)

まるでナイフで切ったように、岩ばんが切れ、右がわが、左がわの上にのしあがっています。これが黒松内で見られる活断層のひとつです。活断層は、長万部(おしゃまんべ)から寿都までずっとつづいており、また寿都沖の海底までもつながっている可能性(かのうせい)があります。



活断層が動くと、こんど、すくなくともM7.3以上の大きな地震(じしん)を起こすとよそくされています。10万年のあいだには、もっと大きな地震が起き、放射能がもれて、大地や海をおせんする可能性(かのうせい)がたかいのです。



「子どもたちに核のゴミのない寿都町を！ 町民の会」  
事務局： 048-0401寿都郡寿都町字新栄町101-6  
TEL・FAX: 0136-62-3630 Email: kakugomino@gmail.com